

## メルケルとトランプ——プロテスタンティズムが生んだ二人の政治的指導者

深井智朗

### 0. 宗教改革から500年

- 宗教改革の現代的意義
- 現代社会の「深層構造」？

### 1. 宗教改革とは何であったのか

- 背景になったこと、死の問題
- 中世の教会の「救い」
- 天国に行くという救いとその仕組み
- ルターの改革のひとつのきっかけ Reformation が意味していること
- 贖宥状のシステム
- 教皇も公会議も間違えることがある
- 何が宗教の基準（はかり）なのか？
- 聖書 ⇒ 聖書を自由に読んでよい ⇒ 権威ではなく実力 ⇒ 分裂する宗教
- 解決できない問題 何によって聖書をよみひとつになるのか
  - 1) 教義や信条
  - 2) 専門知識
  - 3) カリスマ
  - 4) 読む人のニーズ

### 2. 宗教改革の政治的背景

- ドイツ国民の神聖ローマ帝国 300以上の領邦の連合体
- 支配の正当性の証明ために必要な「宗教」
  - 神が選んだ王=王による宗教の統一
- 教会は誰のものか？ 教会の所有者としての王 宗教的行事を行うために雇われる司祭
- 従来ローマとの関係を維持するか、ルターの改革を選ぶか？
- 領主による宗教の決定 1555年の「アウクスブルク宗教平和」
- ルターの保守化？
- さらなる改革を求める勢力
- 保守化したルター 改革を求める勢力を追い出す
  - 社会の統一を乱す者たち、教会と政府が協力して排除する
  - 洗礼主義 自由に教会を作らせろ 教会は王だけではなく、自発的結社として可能だという主張
- 政府に寄り添うルター派 古プロテスタンティズム
- 政府の権力を嫌う「改革の改革」 新プロテスタンティズム

### 3. 保守勢力としてのルターの宗教改革＝古プロテスタンティズム

- 「上に立つ権威」(die Obrigkeit)の解釈

-ローマの信徒への手紙 13 章の解釈

「1 すべての人は、上に立つ権威に従うべきである。なぜなら、神によらない権威はなく、おおよそ存在している権威は、すべて神によって立てられたものだからである。 2 したがって、権威に逆らう者は、神の定めにとむく者である。とむく者は、自分の身にさばきを招くことになる。 3 いったい、支配者たちは、善事をする者には恐怖でなく、悪事をする者にこそ恐怖である。あなたは権威を恐れないことを願うのか。それでは、善事をするがよい。そうすれば、彼からほめられるであろう。 4 彼は、あなたに益を与えるための神の僕なのである。しかし、もしあなたが悪事をすれば、恐れなければならない。彼はいたずらに剣を帯びているのではない。彼は神の僕であって、悪事を行う者に対しては、怒りをもって報いるからである。 5 だから、ただ怒りをのがれるためだけではなく、良心のためにも従うべきである。 6 あなたがたが貢を納めるのも、また同じ理由からである。彼らは神に仕える者として、もっぱらこの務に携わっているのである。 7 あなたがたは、彼らすべてに対して、義務を果しなさい。すなわち、貢を納むべき者には貢を納め、税を納むべき者には税を納め、恐るべき者は恐れ、敬うべき者は敬いなさい。」

- 「教養宗教」 国民的道德

-国家によりそう宗教

-1871 年の統一 日本のひとつのモデル

-ワイマール共和国の悲劇

-ナチスの時代

-戦後

-牧師の娘メルケルとルター派の牧師ガウク

-ボン基本法

「前文: 神と人間に対するみずからの弁明責任を自覚し、統合されたヨーロッパの中で平等の権利を有する一員として、世界平和に貢献しようとする決意に満ちて、ドイツ国民は、その憲法制定権力により、この基本法を制定した。」

「第 7 条(2) 教育権者は、子供の宗教教育への参加を決定する権利を有する。

(3) 宗教教育は、公立学校においては、非宗教的学校を除き、正規の教科目とする。宗教教育は、宗教団体の教義に従って行うが、国の監督権を妨げてはならない。いかなる教員も、その意思に反して宗教教育を行う義務を負わされてはならない。」

「140 条＝ボン基本法 137 条 (6) 公法人の宗教団体は、住民税台帳に基づき、ラント法の規定に従って、税を徴収する権能が与えられる。」

### 4. 改革の改革＝新プロテスタンティズム

-イングランドの宗教改革

- アングリカンとピューリタン : カトリックとプロテスタント
- ピューリタンの伝統 教会の市場化 聖書を読む実力による解決
- 伝道という自由な競争
- 国家嫌いという DNA
- アメリカでの自由な競争 聖書を読む実力勝負の世界
- 市場化、あるいは民営化という考え
- プラグマティズムとしてのプロテスタンティズム
- 「予定論」の反転
- 今ここでの成功こそが正義であるという感覚
- トランプの背後にあるプロテスタンティズム
- トランプの母の信仰
- 自由を手にしたが、自由が自由な社会を破壊する

## 5. プロテスタンティズムの現代的意義

- もう一度「社会の深層構造」という考え
- 地政学的判断 フリードリヒ・ナウマン
- 共存の作法
- 「神的な生は私たちの現世での経験においては一ではなく多なのです。そしてこの多の中の存在する一を思うことこそが愛の本質なのです」(エルンスト・トレルチ)
- 「喧嘩した兄弟も夕食では同じテーブルに座らねばならない」